

藤の裏葉乃巻

まらひ

藤の
うらな

我を
まらひ



赤松
梅之丞

足利
雲井

氏之丞
仲経

赤松



此古歌
もた

為細の
あや

今日
あや

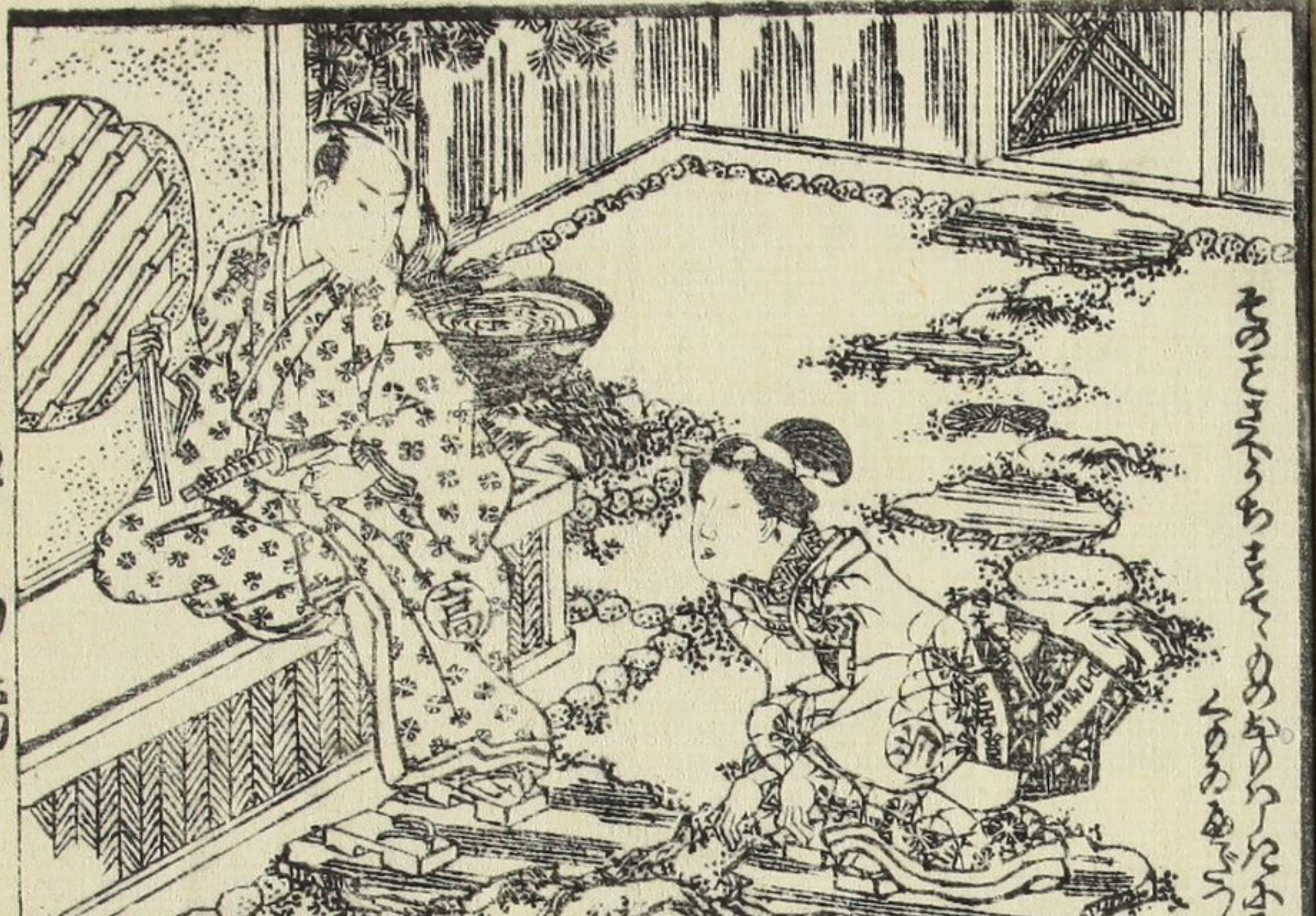
此歌
名

柏之
助

わが家井の運氏中へつれく
あつたてはこころを古きも
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首
うらみのこころをわけて
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首
うらみのこころをわけて
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首



うらみのこころをわけて
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首
うらみのこころをわけて
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首



そのこころをわけて
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首
そのこころをわけて
まの世にこころをわけて
うらみあつたうらみ大首



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary related to the illustration above.

Vertical columns of handwritten Japanese text located above the illustration of the woman at the desk.



Vertical columns of handwritten Japanese text located below the staircase illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text located to the left of the main illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text located below the main illustration.

豊國画 一筆茶昇作



あんなをとりてあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら

あんなをとりてあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら
まゝにたのむるはあまら

樂亭西馬作 六編
稻妻形怪鼠標子 出板
一勇齋國芳画 七編

比異 二個 八
仕立 仙果化 四編
一勇齋國芳画 五編

安政七年庚申孟春新刻

考紅菱 國貞画
字津谷峠 種
清録 全三編後切

壽笑亭笑壽作 五編
與謝武郎戀夜話
一壽齋國貞画 六編

錦昇堂 忠びよやん



紅梅





其申之部より西へ
若くは其部より西へ

一筆夜成作
一陽新豊國



多しん

豊國画

一筆茶昇作



白木の書
助五
多の毛
ちりこわ



筆書
硯書
浄書
柳枝

其由縁鄙俤

十四編
十五編
十六編

笠亭仙果著作
梅蝶樓國貞画

十勇士尼子の礎

三編 為永春水作
四編 一壽齋國貞画

兩夜鐘四谷雜談

五編 河竹其水作
六編 歌川國貞画

錦昇
堂藏
板略
目錄

比奈乃都大内譚

初編 笠亭仙果作
二編 一勇齋國芳画

地本繪草紙問屋 江戸よりあり町 惠比壽屋庄七板

